

会 議 記 録

会議名称	平成 26 年度第 2 回 杉並区立図書館協議会
日 時	平成 26 年 7 月 26 日（土）午後 2 時 03 分～午後 4 時 02 分 （館内見学のため休憩：午後 2 時 40 分～午後 3 時 31 分）
場 所	中央図書館 地下 1 階 視聴覚ホール
出席者	委員 沼田、中島、原、石橋、高野、川田、澁川 区側 中央図書館長、中央図書館次長、管理係長、企画運営係長、 資料相談係長、事業係長、企画運営係職員、柿木図書館長、 高円寺図書館長、西荻図書館長、永福図書館長、宮前図書館長、 成田図書館長、阿佐谷図書館長、高井戸図書館長、方南図書館長、 南荻窪図書館長、下井草図書館長、今川図書館長
配付資料	資料 1 平成 26 年度利用者満足度調査について 資料 2 中央図書館改修計画について
会議次第	1 開会 2 議題 【審議事項】 (1) 平成 26 年度利用者満足度調査について (2) 中央図書館改修計画について 【報告事項】 (1) その他 3 閉会

○中央図書館次長 それでは、時刻も過ぎましたので、平成26年度第2回図書館協議会を開会させていただきます。

まず、館長から一言ご挨拶を申し上げます。

○中央図書館長 皆さん、こんにちは。第2回の図書館運営協議会ということで、きょうは大変暑い中お集まりくださいまして、ありがとうございます。

今回、急遽図書館協議会を開催いたしましたけども、議題としては今年度の利用者満足度調査ということで、ちょっと質問の内容項目を若干変更して簡略化したいということで、委員の皆様方のご意見を伺いたいということで考えてございます。

私も昨年の調査結果の資料を見ているんですけども、回答は、結構、それぞれ項目ごとに書いている件数を見ると、5,000件以上、何らかの記入をしまして、読むと、満足している人も書いていますし、やや満足の人も書いているし、不満の人、いろんな方がご意見を書いていますので、読んでみると結構参考にはなりますので、そういう意味で、また今年度も調査をやりますけども、もうちょっと書くほうの立場に立って、簡略化した形でできれば回答してもらいたいということで考えてございます。

それと、あと、中央館の改修の計画でございますけども、これも昨年のちょうど今ごろ、秋ぐらいから区のほうで全庁的に取り組んでいる課題でございまして、その中で中央図書館につきましては、27年度、来年度に設計して、28年度に改修ということで、時間的には、もう余りないんですね。ことしがもう26年も4カ月ぐらいになっていますので、そういう中で一番大きな課題としては、この中央図書館はもうできて三十二、三年たちますので、やはり最初のころはよかったかもしれませんが、いろんな社会状況の変化とか、区民のいろんなニーズの変化とか、コンピューター社会とか、いろんな状況が変わっていますので、そういうような中で、この中央館の、空調とか給排水とか壁とか床とか、そういうのは当然張りかえ等をやりますけども、そのほか、もうちょっと使い勝手がいいように、運営上もうちょっと効率的にできないかとか、部屋の活用をもっとオープンにできないかとか、いろんな観点から見ると、それぞれ、こうしてほしいとか、要望等があると思います。その辺は、昨年度、何か保存庫のほうは見学したようですけども、きょうは全館をちょっと見ていただいて、その後はざっくばらんな意見を伺いたいなと思ってございます。ただ、きょう全て出尽くすわけではございませんので、またいろんなことで思いつけば、メール等、電話等でも結構ですので、ご意見を寄せていただければと思ってございます。

いずれにしても、この工事のそういうハード面と、あと工事期間中、職員とかがい

ますので、あとサービスをどこまで継続できるかということで、ほかの自治体であれば結構移転での改築というのがあるんですね。ここは、この図書館がここで改修をやるので、そういう大きな改築というのは、恐らく役所の中でも余りなかったと思うんですね。区の職員はここだけで45人ぐらいいますので、その職員も、その期間どこかにいなくちゃいけませんので、そういう課題もあるわけです。そういう意味で、非常にいろんな幅広い点で、研究、検討する必要性がありますので、また委員の皆さん方のご意見も伺いながら進めていきたいと思っていますので、きょうはよろしく願いいたします。

○中央図書館次長 それでは、早速ですけど、会長、議事の進行をよろしく願いします。

○会長 はい。それでは、議事に入ります。

今、館長のご挨拶の中に、議題が2件、おおよそ説明していただきました。最初に、この後課題になる経営評価と密接にかかわりがある調査でございますので、今年度の利用者満足度調査について少し詳しく説明してください。

○中央図書館次長 はい、わかりました。

その前に、きょうお配りした資料の確認ですけども、きょうの次第と資料1の平成26年度の利用者満足度調査について、それと資料2の中央図書館改修計画について。きょうの資料はこの二つですがそろっていますでしょうか。

それでは、最初のほうの、平成26年度利用者満足度調査について、担当のほうから資料の説明をいたします。お願いします。

○企画運営係長 はい。それでは、資料1をごらんください。平成26年度利用者満足度調査についてご説明いたします。

調査の方法については従来どおりと変更はありませんけども、調査票につきまして、アンケート項目を、整理・統合させていただくというようなことでご説明させていただきます。

それでは、1、この調査の目的ですが、利用者の図書館サービスへの評価及びニーズを把握するということです。

2、対象としましては、中学生以上の図書館来館者。

3、実施方法としましては、金、土、日の3日間に時間を定めてカウンター及び館内で調査票を直接配布すると。また、記載台にも用紙を設置しております。

4、実施時期ですが、12月の金、土、日の午前、午後、夕方の合計8回、配布いたします。時間は、午前が10時から、午後は2時から、夕方は6時から、1時間または100枚の配布を考

えております。配布枚数については今申し上げたとおりです。

6、回収方法ですが、回収ボックスを記載台等で設置しまして、回収いたします。また、配布時間に合わせて、出口付近で回収を呼びかけております。

そして、7、調査票の変更点ですが、これについては、2枚目以降の調査票とちょっと比較しながらご説明させていただきます。

まず、調査票の①の図書館の職員についてということですが、26年度については、職員の対応はいかがですかということで、一つにまとめさせていただきました。括弧としまして、これまで二つの項目でありました声かけ、説明について、声がかかりやすいですか、説明はわかりやすいですか、などということで一つの項目にさせていただきたいと思っています。

項目を整理・統合する理由としましては、これまで項目数が20項目と非常に多くて、記入者の立場に立って考えると、少し書きにくいようなことがございましたので、整理・統合することで内容をわかりやすくまとめるということと、理由欄をできるだけ広くとって、記入をしていただきたいという思いでございます。

続いて、②の図書館の本、新聞、雑誌等の資料についてですが、これについては、特に変更はございません。

③の図書館の施設についてですが、25年度の調査票では、館内の表示という項目と館内は清潔で利用しやすい状態になっていますかという二つの項目でしたが、今回は「館内施設は利用しやすいですか」ということで、括弧書きで、表示のわかりやすさ、清潔さなどということで、一つの項目に統合させていただきました。

続いて、26年度調査票の裏面をごらんください。④の図書館サービスについてですが、整理・統合するところは、5番の「行事（講演会、映画会、おはなし会など）」のところですが、25年度はそれぞれ3項目に分かれていましたが、同じカテゴリーということでまとめさせていただいて、一つの「行事」ということでご記入いただきたいと考えています。

次に、7番の「OPAC（利用者用端末機）・図書館ホームページについて」ということで、これも25年度は二つの項目に分かれておりましたが、一つに統合させていただきました。

同様に、8番、「パソコン利用について」ということで、これまでインターネット閲覧用パソコンと持込みパソコンによる無線LANの利用についての二つの項目でしたが、一

つに統合させていただきました。

最後に、9番、「図書館発行のおたよりやPRについて」ということですが、このところに情報発信ということで、PRという文言も追加させていただきたいと考えております。

私のほうからは、26年度利用者満足度調査につきましてご説明させていただきました。よろしく申し上げます。

○企画運営係 補足をいいですか。

○中央図書館次長 はい。お願いします。

○企画運営係 利用者満足度調査については、去年の12月に実施したところなんです、25年度は各項目に自由記入欄を設定したということで、そこにいろんな意見を書いてくるケースがかなりありました。その中で、アンケートについて意見を書いている人も結構出てきていまして、その中で、要するに項目が多過ぎるとか、うざったいとか、そういった声も結構ありました。

そういった意味で、できるだけ利用者の方にアンケートを書いてもらう側の立場から考えたときに、似たような項目はそろえたほうがいだろうという発想と、それから、そのあたりが職員についてと施設についてとをまとめるという発想になります。

それからあと、講演会、映画会、おはなし会、このあたりになると、どうしても関心のない人は利用したことがないといったようなところの回答がかなり多くなるということがあったりとか、特に、子供の行事について設問を単独で持ってくると、私には子供がいないのに何で聞いてくるのかということを書いてきたりとか、そういったようなものがあったりするので、いわゆる行事関係は一つにまとめておこうかなという発想です。

それから、OPACとホームページ、これは利用者側から見ると、図書館に対してのデータへのアプローチという視点で行くと同じ項目になるかなということで、OPAC、予約とか蔵書検索、それからホームページも図書館でどんなことをやっているのかなというように、利用者側から図書館に対してのアプローチ手段という視点で行くと同じだろうということで、一本化しています。

それから、閲覧用のパソコンと持ち込みパソコンを使った無線LANですね。これはいわゆる図書館の施設あるいは図書館に持ってきた自分のパソコンを使ってほかのサイトにアプローチをするという、外部データに対してのアクセスについてどういうふうに考えているのかという視点で、これも一つにまとめた。特に、インターネットのパソコンを使う人というのは、そんなに、いわゆるデータベースを使うとか、「日経テレコン」とか

「ヨミダス」とか、そういったようなものを使うとか、あるいは無線LANにしても、結構、パソコンを持っていないからこんなことを聞いてもわからないよという自由意見欄とかもあったりするので、その辺も個別に設けるよりかは一つにまとめたほうがうるさくないかなというところですね。

それから、最後、おたよりについては、今までおたよりだけだったんですが、やっぱりおたよりも、見る人、見ない人とかもいるので、図書館からいわゆる情報発信についての一つの手段がおたよりということであって、それ以外に対して、図書館は皆さんに対してPR度はどうですかというようなところもまとめて一つにしてあるというような発想でつくりました。

自由意見欄を設定することによって、いろんな意見はとりあえず収集できているというところなので、やっぱりその辺の意見を大事にして考えていく必要性はあるかなと。それから、実施方法、実施時期、配布枚数なんですけども、これは基本的に今までと、従前と同じ形でしてあります。基本的には、1週間、曜日を設定しないでずっとやるという方法だとか、それから、朝来た人から帰る人までずっと渡しっ放しという方法もあるかとも思うんですが、このあたり、私自身が実際の現場での経験をしていないというところもありますし、各地域図書館の職員に対してそれだけの負担をかけることができるかどうかというところもあろうかと思うので、このあたりは今までどおりの実施時期、それから、配布枚数も、毎年やっている各館での配布枚数をもとに中央図書館で印刷して各館に配布しているので、無駄な印刷もしたくないので、この辺も今までの実績に応じた形での配布枚数ということで、このあたりは変更はしていないというところで、補足説明を終わらせていただきたいと思います。

○中央図書館次長 以上が資料の説明となります。項目をくくって、余り細かくならずに、答えやすいようにしていきたいなと思って、変えたところがございます。

○会長 ということでございますが、何か質問、ご意見。

今の補足説明ではっきりしたんですけども、1から6、つまり、方法は前年同様、調査の項目については多少組みかえをしたと。基本的にそういうことで。

○中央図書館次長 はい。

○会長 何か。

○委員 ちょっと、二、三、よろしゅうございますか。

配布枚数は大体800枚ぐらいで、マックスで、各館とも配りましょうということですか

ら、13館あると、よければ1万名ぐらいの、それぐらいの数になるんだろうと思いますけど。この前いただいたデータの中では、例えば阿佐谷図書館というのは、入館者に対する回答の割合というのは18.5%と、非常に高いんですよ。一方では高円寺だとか宮前だとか南荻窪というところは7、8%ということで、1桁になっているんです。

できるだけアンケートにご協力いただくことにこしたことはないのですが、例えば阿佐谷あたりは18.5%になっているというのは、何らかの工夫というか、あるいは来館者に対する呼びかけというか、そういうことを仮にされているとすれば、そういう工夫を他館の人たちも取り入れていただいて、少しでもこの回答率が上がっていくというか、そういう取り組みを、ぜひ、していただきたい。大体継続的に回答者数は3,000名ぐらいですから、配ろうと思っている市場に対して3割ぐらいの回答率になっているわけですね。ですから、そこら辺の工夫をひとつしていただければなというふうに思っております。

それからもう一点は、統合されるご提案については、私は基本的には問題ないと思っておりますが、例えば職員の対応の声がかけやすくだとか説明がわかりやすくだとか、この辺の説明は従来二つに分かれていたんですけど、回答の状況を見ると、ほぼ同じようなパターンの回答になっているわけですね、満足度だとかということから。

○企画運営係 そうですね。

○委員 そういうものは統合していいんだろうと思いますし、それから先ほど講演会とか映画会とかおはなし会だとかという類いも大体同じような回答パターンになっているわけですね。ですから、これらを統合することによって、変なバイアスのデータにはならないだろうというのがきょうご説明をいただいた感触です。

ただ、1点、7番目で、いわゆるOPACと図書館ホームページについては統合しようという話なんですけど、一つ、OPACについては、新しいシステムができて、その利用者端末の使いやすさも含めた問いかけになるんだろうと思うんですね、利用者として。一方、図書館ホームページというのは、この10年ビジョンの中にも書いておりますように、広報、PRというのは非常に重要なアクションですよということを言っているわけでありまして、むしろ9番目に書いている図書館で発行されるいろんなおたよりだとか、あるいは図書館ホームページで今発信しておられる情報の質だとか量だとかタイミングだとか、そういうところは満足なのか、問題があるのか。むしろ統合するとしたら、ホームページは9番目のカテゴリーの中に入れたらどうなのかなというふうに思いました。

次々申し上げて申しわけありませんけど、もう一つは、それぞれの項目について、「理

由もよろしければご記入ください」と、こういう表現になっていますね。この前いただいたデータの中では、この辺の自由意見というか理由欄にどういうことが書かれているかというのはご紹介がなかったので、ちょっと想像でしかないんでありますけど、ただ、一つの表現としては、予約・リクエストについて満足、不満足等々を書いていただいて、例えばよりよく改善するためのご提案をしていただけませんか。もう少し区民の人たちが図書館自体をつくり上げていく、育てていくという趣旨からすると、理由をよろしければというよりも、もっと提案してほしいと、何かそういうトーンの表現というのも一つあるのではないかというふうに思います。これは、後でご意見を伺いたいと思います。

それからもう一点は、10年ビジョンの中で、杉並区におられる外国人の方々ですね。中国、韓国の国籍の方が多いいというようなお話を伺っているんですが、そういう方々が図書館をそもそもの程度利用されているのかちょっと僕はよくわからないんですが、もし利用されているとすると、コストがかかる話ですけど、こういったアンケートについても中国語バージョンだとか韓国語バージョンだとか英語バージョンだとか、そういうものを幾つかやっぱり準備して、外国籍の方にも、この杉並区の図書館のありようについて意見を伺うということも、今回、今年すぐということにはならないかもわかりませんが、その辺もぜひお考えをいただいて、いわゆるダイバーシティという時代でありますから、国籍を超えた取り組みを杉並区としてはしているという方向感を出してもらったほうがいいと思っています。

長々とすみません。以上です。

○会長 いえ。ほかに何かございますか。

じゃあ、私から。この実施時期12月というのは何か理由があったんでしたっけ。

○企画運営係 ありません。

○会長 ないですよ。経営評価に反映するような参考データという点で言うと、少し前倒しでやっていただいたほうが、データが有効に使えるかもしれないと、私はちょっと思ってたんですね。特に理由がなければ、その点をお考えいただきたいと。

それから、私も、ご指摘にあった7番のOPACとホームページというのは全く機能的に違うので、これはご提案どおりに少し変えられたほうが。

その残ったOPACなんですけど、これをこのまま字面で見ると、館内で利用できるあのOPAC、あれしか頭に浮かばないんだけど、ホームページで検索する目録もあるわけですね。だから、これは両方を考えて満足かどうかというのをお答えくださいというよ

うな文章に書いたほうがいいのか。つまり、ホームページが下へ移った。OPAC だけが残るわけですね。そういうふうにされるとすれば、この7番の項目は少し変えて、質問の文章をちょっと変えたほうがいい。

ただ、OPAC そのもの、まあ、かなり図書館の中でよく使われているかもしれないんだけど、今ちょっと私、来る前に、七、八歳の女の子が使っているのを見て、ほう、なかなかよくというか、なじんでいるなという、そんな感じがしたんですけど。それからの連想で、ただしあれだけでなく、外からアクセスすることも多いわけですから。つまり、検索ということでアクセスすることが多いわけですから、ちょっとそちらのほうも意識を向けて質問してみたらどうかと、そう思いました。

それでは、ほかになれば、どうぞ、そういう意見も組み入れられた上でお進めくださいと思います。

○中央図書館次長 特に設問で、今、7番と9番ですか、その内容をしっかりと、機能、質問の内容を踏まえた形でそこは直していきたいと思っています。

あと、OPAC 単独だけ残るということですけど、検索機能についてのことになると思いますので、そういう形で設問は直していきたいと思っております。

○会長 はい。

それでは、二つ目の議題、中央図書館の改修計画についてご説明をお願いいたします。

○中央図書館次長 はい。

○会長 この後は施設を見学した上で質疑というふうに入りたいと思いますので、説明の後、直ちに視察ということにしましょうか。

○中央図書館次長 はい。よろしく申し上げます。

それでは、まず資料2のほうをごらんください。「中央図書館改修計画について」というところで、5項目ほど載せてございますけども、まず第1番目の杉並区立施設再編整備計画について、別紙としてつけてございます。これは以前お配りいたしましたが、改めて本日準備して、配付させていただいたというところです。

別紙になっております区立施設の再編整備計画につきましては、めくっていただきますと基本的な考え方がございまして、その後に図書館としての課題、そして、今後の取り組み、スケジュールというようなことで、図書館に関するところを出してございます。

まず、基本的な方針のところですけども、めくっていただきまして、別紙の2ページ目のほうですか、やはり従前ありました7地域の考え方ですけども、整備の基準としてはそ

れを継承していきます。現在7地域というところで、図書館は13館整備されていて、高円寺地域でまだ1館だけということで、そこについての課題が示されています。それと、今後の施設につきましても、改築等をする場合については複合化とか多機能化を進めて、効率化を推進していくというところが基本的な方針として出ております。

あと、区内にあまねく配置されております学校、そういった施設を有効活用していくということも、一つの基本的な方針として押さえられてございます。もう一つ、図書館としては地域コミュニティ施設の再編というようなところも踏まえて、今後検討していくと。そして、一番大事なところは、誰もが利用しやすい施設となるよう、そういったところを考えながら再編というところをやっていききたいというところなんです。

そして、図書館としての現在の課題というところになりますと、先ほど申し上げたように7地域で、各地域に2館というところで整備してきたんですけども、その中で高円寺地域がまだ2館目の設置がなされていないというところで、こういったところをどうしていくかというのが課題と。

それと、蔵書がふえ続けているという状況で、改築時にそういった蔵書の基準というふうなものもしっかり見据えて、果たして適正な蔵書はどのくらいなのか、そういったところを探っていきたいと。

そして、改めまして、図書館単独ということではなくて、他施設との複合化、多機能化などを図っていくというところが今後の課題というところで、そして、その中で具体的な取り組みといたしましては、高円寺地域について、改めて高円寺地域の図書館のあり方について検討するというところで、そして新たに、サービスコーナーですけども、桜上水駅の北側にサービスコーナーを新設するという、そして高円寺の駅前図書サービスコーナーについては、高円寺地域の図書館のあり方とあわせて検討するという、当面、サービスは継続していくというところなんです。

その次に、中央図書館につきましては老朽化が進んだというところがございますので、長期修繕計画の考えも含んで大改修を行うというところなんです。そして、次に永福、柿木、高円寺、宮前、この4館についてはかなり老朽化が進んでございますので、この四つについては、早期に今後の改築ということを考えていくと。その際には、複合化や多機能化なども考えていくというところなんです。

そして、蔵書の規模の適正化というのも図って、そんな中で省スペース化が推進できないかということもちゃんと踏まえていくようにというところなんです。

そして、実際のスケジュールのほうですけれども、高円寺地域の図書館のあり方については、今年度と来年度で当面検討する。そして、桜上水のサービスコーナーについては、平成27年度から開設というところで、今、準備を進めてございます。

中央図書館の改修については、来年度設計いたしまして、28年度に改修というスケジュールで、今取り組みをしてございます。永福、柿木、高円寺、宮前図書館につきましては、今後、どういう状況、改築、合築とか複合化とかというところがいつ出るかわかりませんが、まずは当面28年度から30年度に検討するというスケジュールを今組んでいるところです。そして、蔵書規模の適正化につきましては、実際、今年度から内部検討もしているというところで、それぞれ中央図書館の改修、そして老朽化した4館の改築等の中で間に合うような検討はしていきたいと考えているところでございます。

そして、戻りまして、これまでの取り組みでございますけれども、中央図書館の中で、中央図書館改修計画等推進会議というのを設置いたしました。内部の組織ですけれども、その中で、中央図書館の改修に関しての分科会と、もう一方では情報化と除籍の分科会ということで二つの分科会を設けて、今、検討を行っているところでございます。

そして、そういった改修の中で今までやってきたところでございますけれども、ほかの自治体の図書館を実際に見学してきました。記載のある7月10日に行ったことにつきましては、北区、葛飾区、墨田区のそれぞれの中央館機能を持った図書館を視察しました。この3館については、移設というところですね。新しく別の場所に図書館をつくったという背景がございまして、そうした中で、新しい施設というところを踏まえまして、レイアウト、それから自動化の状況、そして改めて現在どういうサービスを提供しているのか、これから中央図書館のほうに改修に当たって取り入れるようなサービスとか、そういったものはないかという観点で、この北区、葛飾区、墨田区については、視察、見学をしてきたところです。

そして、次に、7月24日、ついおととい行ったところですが、江東区立江東図書館のほうに見学に行っていました。この江東図書館についてはその場所で改修を行ったということで、13カ月間の休館を行ったとのことですから、私どもがこの場所で改修するという、まさに杉並の中央図書館の改修ケースに当たるというところで、その状況等について見学してきたところです。

今後の予定ですけれども、中央図書館につきましては、先ほど申し上げましたように、来年度に設計、28年度に実際に改修、1年かけてというふうには考えてございます。その際、

改修についての具体的な内容の検討ですけれども、条件としては、電気、空調、給排水の機器の一新というのが基本にはなりますので、外観の変更とか床面積をふやすという改築ではなくて、中のリニューアルというところで考えてもらいたいというところです。こうした中で、中の書架の配置、それから働く職員のほうの動線、利用者の動線、そういった利用しやすいような観点でのご意見を頂戴したいと思っております。

他の自治体の見学の状況ですけれども、今まとめている状況です。新しいサービス、新しい施設、そういったものを取り入れられないかと。それと、もう一つは、その場で改修する場合にどういった課題が生じてくるのか、そういったところを踏まえて、見学を行ってきたというところでございます。

資料についての説明は以上になりますけれども。

○会長 ありがとうございます。

それじゃ、早速、中を見ましょう。その上で議論を進めたいと思います。

○中央図書館次長 はい、わかりました。係長のほうが先導して、ご案内します。

○資料相談係長 じゃあ、私のほうでご案内をさせていただきます。

ご存じのとおり、この建物は、地上2階建て、地下1階建てになります。きょうは2階から順番に下がってくる形で回りしたいと思います。あとは、別館でBM棟がありますので、そちらのほうもごらんいただきたいと思いますので。あとは、保存庫も去年見ていただきましたけれども、今年も一応こちらのほうもごらんいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

じゃあ、私のほうでご案内しますので、お願いします。

(館内見学のため休憩)

○会長 それじゃ、議事を続けます。

施設をかなり詳しく見させていただいて、それぞれにこれをどういうふうにするのかと、お考えがあるだろうと思うんですね。ただ、今、ふっと、思い出したのは、テレビの番組で「ビフォーアフター」というのがありますね。家を改造して、もう本当に、それほど金をかけないで、全く見違えるような、内装だけでもしてしまうと。そういう発想でも持たないことには、現状どうするかというのじゃなかなかいいアイデアは出てこないと思うので、多少奇想天外でも構わないから、いろいろと、きょうからしばらくの間、ご意見があったらどんどん出していただいて。というふうに私は考えたんですが。

いかがですか、何かありますか。

○委員 ちょっと、一つ。先ほどのご説明で質問なんですけど、江東区の江東図書館を見られたときに、13カ月間休業せざるを得なかったと。これは今回の中央でやるような電気とか空調とか、そういう部分だけで。躯体の構造そのものも手が入ったんですか。そのために、やっぱり同じように設備面だけの改修で13カ月間閉めざるを得なかったと、こういう話ですか。こども、一応、躯体の構造は別に問題ないというふうな話ですよ。だから、水回りとか電気とか空調とか、その辺が中心になるんだと思うんですけど。

○中央図書館次長 江東区は耐震改修がメインということだったので、そのまま躯体を基本的には残した形で耐震の補強をするといった中で、中のリニューアルも行ったということとです。

○委員 ああ、そうですか。

○中央図書館次長 基本は耐震改修をメインにしていた。その場で中を変えていくということなので、聞いたところによると、江東区は、中の蔵書について半分を違う倉庫に移設して、残った半分には封をしたまま工事をしたというところでした。13カ月間ほど休館し、そのかわりに、杉並で言うところのサービスコーナー的なところを近くの出張所に開設して、何とか本の取り次ぎサービスだけはやったというところでした。

○委員 なるほど。

○会長 その江東図書館の、何というんだらう、リニューアルのぐあいというか度合いというような、それはどの程度だったんですか。大改築、小改築。

○中央図書館長 いや、ほとんどもうみんな、多分ビフォーアフターでいくと余り変わっていないと思いますね。

○会長 ああ、そうですか。

○中央図書館長 予算規模も10億円ぐらいと言っていましたので、もともとは、昭和51年、都が図書館をつくって、それを、10年ちょっとしてから、区のほうで移管を受けて。ですから、もう40年ぐらいですよ。結局、耐震補強が必要ということで、よく窓枠のところの補強をやっていますよね。それを全部やっているんですよ。中のレイアウト変更はほとんどやっていないと思います。給排水とか空調とか壁面と、床とか天井とか、それは直していますけども。

○委員 そこですか。それで13カ月。

○会長 何かお気づきのところがあったら。

○委員 参考までに、ちょっと大学図書館の。

○会長 どうぞ、どうぞ。

○委員 今、大学図書館でもスペースの改修というか、つくりかえみたいなのが非常に盛んで。それはどういうことかという、例えば参考図書、辞書ですね。あれは、やっぱり今は使わないんですよ。検索なんかで済んじゃうので。大体図書館の1階スペースに参考図書がずっと並んでいるわけですよ。

○会長 一番いいところですよ。

○委員 そうです。それが使われていないというところなので。

もう一つは、AVコーナーですね。もう、ビデオも見なくなっている。YouTubeで見ると、そういうのがありますので。そういうスペースをもう減らして、今、共同でゼミで使えるようなものを1階に置くという、そういう改築のところがあります。女子美も今それを考えているところなんですけども。一応、参考までに。

○会長 いや、なかなかいいところだと思って。私も、この2階に上がってみて、レファレンスルーム、資料室というふうに並んでいますけども、あれが、何というんだらう、あのスペースは、雰囲気はなかなかいいんですけど、みんなほとんど窓の景色なんかは関係ないですよ。資料を読み込んでいるんですよ。だから、あんなにいいところでもなくとも。

その前に何があったかという、保存書庫がありますね。あれを閲覧スペースに使えないか。使えるかどうか、わかりませんよ。調べ物をする人というのは窓の景色なんかは全然関係ないわけですから、要するに使いたい資料がある、自分で集中できる、そういう空間を用意しておけばいいんじゃないかなと。ずっと、2階から地下へ降りて、あ、ここを使えるかなと。

あのいいところをどういうふうにするか。それはその次のあれなんですけども、1階が非常にせせこましい。一般の閲覧のスペースが。で、今、ざっと回って見たら、もう、ほとんど満席ですよ。今この時期だからかなとは思ったんですけども、もう少し1階の空間を分散するか。今、子供のスペースと閲覧のスペース、オープン書庫ですね、いろんなものが入っている。それに展示コーナーもあって。というようなぐあい、新聞コーナーですか、コーナーがいっぱいあるので、何か少し整理できないのかなと。

整理すると、まあ、基本は地下の保存書庫を何か使えるかどうか。それと、耐震壁の問題もあるだろうけども、壁が抜けるところはかなりあるはずなので、廊下のつけかえだとか。例えばこれを抜いちゃって、廊下をつけかえるとかというようなことを考えれば、別な空間が幾つかできてくる。それを分散するというような。

目標は、やっぱり、どういう図書館を施設的につくりたいかというのは、基本方針にうたっている共同の勉強部屋とあって、そういうところですから、それをまず目標に、それをどう空間的に実現するかというのを頭に置いておいて、現状を再編する。

また、その「ビフォーアフター」に戻りますけど、あれはやっぱり、キーマンはデザイナーなんですよね。だから、注文主がこういう家にしたい、こういうふうに住みたいというふうに注文を出すと、いろいろと考えてくれる。それはプロですから、当然のことなんですけど。現場をよく知っているからといって、図書館員がいろいろと図面を引いたり考えてみるというのは、あれは愚の骨頂なので。実際には私も経験がありますけど。やっぱり餅は餅屋だし。

しかも、ちょうどここと同じようなケースでリニューアルしなきゃならない公共図書館の施設がたくさんあると思うんですよね。だから、そういうことを考えると、デザイナーのほうも、ある意味ではビジネスチャンスかもしれない。今はもう、新築はほとんどできないですから、リニューアルで金を稼ごうといったらおかしいですけど、そういうこともあるので、予算内ですけども、コンペでもしてみたらおもしろいアイデアが出てくるかもしれない。

ただ、そういうときに、こういう図書館にしたい——こういうスペースに、空間にしたい、こういう環境を施設の中で実現したいというのは、相当具体的に描く必要があるんじゃないかなと思います。恐らく、ここの改築のキーポイントは保存書庫だと思うんです。

ただ、本をどうするかという問題がもう一つ残っていますから。まあ、除籍する、重複した要らないものは捨ててしまうという、そういう発想はありますが、それだけじゃ済まないし、毎年どんどん、万という数の本が入ってきますから。その辺をどうするかがかなり大きな問題なんじゃないかなというふうに思っているんですけど。

さっきもエレベーターの中で話をしたんですけども、蔵書の問題というのは、公共図書館も大学図書館もみんな同じなんですよ。私自身も慶應の大学図書館にいて、管理職員になって、スペースはないか、スペースはないかといって苦労した。今から30年も前の話なので、自前で保存書庫をつくってもらったんですけど、今そういうこともできないので、共同でつくる。金を出せないのも、さっきエレベーターの中で言いましたが、要するに書庫専用の指定館をもう一つつくる。ただし、それは杉並でつくるんじゃなくて、東京の公共図書館、都立中央も含めて、場合によっては大学も含めて、コンソーシアム、そういう発想でやると、割とその重荷は後々楽になるんじゃないかと。

で、いろんなところの本を集めてくると、これ、大学図書館を含めて、実質は、私、調べたわけでないですが、8割方みんな同じ本なんです。だから、それは一つ残しておいて、あとは、なかなかないユニークなタイトルだけをぎっちりやればいいわけですから、それはコンソーシアムに任せて運営すると、割と経費が安く済むんじゃないかなというふうに想像するんですけどね。

改築計画でなくて、変な話で進んできましたけども、どうも、個別的にここの改修計画の基本はそこにありそうだなという気がしますね。

何かほかにありませんか。私、勝手なことをしゃべって。

○委員 よろしいですか。今お話がありましたように、私もいろいろ見せていただくと、省スペース化というんですかね、それは一つの鍵になるんだろうという印象があって、ずっと地下倉庫で並んでいる本を見ると、一切合財捨ててもいいんじゃないかという個人的な印象が強いんですが。何らかの除籍のルールというか考え方があるんだろうと思いますけど。ですから、当然、それぞれの書籍について、例えば過去3年間なのか5年間なのかわかりませんが全く貸し出しされていないというのは、多分データとしてあるんだろうと思うんですね。その辺が対象になるんだろうと思いますけど。当然その中で、やっぱり図書館としてやっぱり価値があって、選書をされる方々がこれは残しておかないといけないというものも当然あるんだろうと思いますけど。

ですから、今、会長が言われたようなコンソーシアムをつくるというちょっと前の段階で、じゃあ、そういったものについては、お隣の練馬なのか武蔵野なのか、とりあえずそこと連携してみて、この全集はほとんど使われていないけど、うちでは保管する。そのかわり、この人の全集はお宅で保管してくれと。何かそういう区の枠を踏み出した一歩を試みると。そういうものがだんだん集積してくると、コンソーシアムのような形である程度まとまった投資をして運用ができるという道筋も開くんんじゃないかな。ちょっと個人的にはそう思っていますね。

それから、もう一つ心配なのが、きのう実はNHKのスペシャルでやっておりましたけど、東北復興がなかなか進まないということで、工賃が上がってというような時代になっていますけど、今回、ここの28年度に改築をすることについて、まあ、設備が中心ですから、今の作業工賃が上がっていることの影響は余りないのかもわかりませんが、その辺の見通しはどうなんですかね。東北で言うと、ほんの1年前、日当4,000円でできたのが、6,000円でもできないということで、6,600円とか7,000円とか、そういうことになってい

ますよね。

これから、東京の場合には、東京オリンピックに絡まるいろんな工事が始まったりするわけで、一体その28年度というのが、コストベースで、設備は劣化していますから、何らかの対応をしないといけないでしょう。そこのタイミングというのをどう考えておられるのかな。それはちょっと専門の方に伺わないといけないのかもわかりませんが、ちょっとそこを懸念しているんですね。

○中央図書館長 その辺は私もきのうテレビでたまたま見ていまして、よく型枠代とか、最初の土台、基礎をつくるところで、なかなか計画どおりいかないというのがありました。

○委員 そうですね。

○中央図書館長 恐らく東京も、今、いろんな、区でも市でも建物の入札をやると、不調が多いんですね。

○委員 ええ。入札できずという話でしたね。

○中央図書館長 そうです。そういう意味では、やっぱり、人件費がかかるとか、資材が上がっているので、業者から見ればもうけが少ないので、なかなか不調にせざるを得ないというのが結構多いので、その辺ちょっと、専門家の話を聞きながらじゃないと、我々はよくわからないんですけども。

○委員 まあ、そうでしょうね。計画は計画なんでしょうけれど。

○中央図書館長 ええ。ですから、役所の中でも、工事の最中にやっぱり物価で資材が上がると、何%か上がり過ぎると、スライドさせる追加契約というものも、場合によってはあるんですね。

○委員 ああ、なるほど。

○中央図書館長 契約をもう追加で上げるという、単品スライドで。

○会長 ほかに何かございませんか。どうぞ。

○副会長 二つございまして、この資料2の一番最後の、このスケジュール表がありますけども、具体的な取組の中央図書館の改修のところには、検討というのは特段表記されていませんけども、26年度中に検討するということ。設計の段階になっても引き続き検討はあるんだと思うんですが、図書館協議会での意見を聞くということのほかに、利用者の意見を聞くというふうな、そういうプロセスも考えておられるんでしょうか。

○中央図書館次長 はい。利用者懇談会を年に1回開いていましたけど、そういったところで、一般の利用者の方までというところではなくて、ふだん団体として使っているところ

ろについての意見は伺うよう、今、計画を立てているところです。

○副会長 そうですか。利用者の声にどこまで対応できるかというのは、予算の問題とかいろいろあると思いますので、難しいわけですが、ただ、いろんな意見があると思うので、広くいろいろな意見を聞いたほうがいいのではないかと思います。これが一つです。

それから、具体的に施設の中をどうするかということについて申し上げますと、利用者が入ってきて、施設案内を見て、どこにどういう書庫があって、というふうに進んでいく動線があるわけですが、それが行ったり来たりすることなく、自然に流れるような形が何とかできないかなど、その工夫です。職員の方に聞けば、丁寧に説明してくれるとは思いますが、大体多くの方が自分で本のところまで行きたいと、そう探す方が多いと思うんですよ。その流れがスムーズに行くように、いろんな設備、書架等、配置をどうするかということを工夫していただきたいと思います。

○中央図書館次長 はい。利用者の方の動線、やっぱり今の配置の中での不具合がないとか、そういったところも、今回の大改修の中で対応していきたいなど。ですから、レイアウトの変更とか、そういったところも考えています。そういったところで、利用者の方が利用しやすいような動線、そういうところもちゃんと踏まえていきたい。内部の検討の中でもそういったところは踏まえながら、ほかの図書館を見に行ったりしています。

○会長 利用者懇談会でこのことを報告するとか話があるときに、ちょっと気をつけなければならないのは、閉館してやるという形になるのか、あるいは一部開館するのか、一部サービスの実施なのか、それを決めてからでないと、とんでもないことになりますから。恐らく一般の利用者の関心というのは、その間どうしてくれるのかということだろうと思うんです。これは、今度の計画の前提部分として非常に重要なことですので、13カ月か15カ月かわかりませんが、その間の取り仕切りですね。これも一つ大きな問題になりますので、それは十分に検討されて、ほとんど決定してからでないと、何かちょっと問題になったりしますので。

○中央図書館次長 はい。ありがとうございます。

○会長 もう、大きな問題になってしまいましたから。

○委員 それからもう一点、先ほどお話にあった改修分科会というのは、どういうメンバーの人で構成される予定なんですか。

○中央図書館次長 図書館の職員で、内部で……

○委員 職員の方。

○中央図書館次長 ええ。改修ということで、新築とか全て全部外まで変えるということではないので、まず内部のほうで検討させていただきたいと、そういう考えです。

○委員 ああ、そういうことですか。

○会長 ほかに。

どうぞ。

○委員 すみません。利用者側ではなくて、職員の方の側からどう思っているのかなという意見なんですけど。今、区の職員と、業務委託ということでTRCが入っていると思うんですけども、レファレンスサービスが、窓口の一番奥のところに職員の方がいらっしゃるんですけど、まず、わかりづらいと思うんです。で、そもそも、この窓口も含めて改修の対象になっていると思うんですけども、今後とも、言ってみれば業務委託を続けていくということが前提としての改修であるのかどうかということ。そうすると、やっぱり業務委託の人たちの休憩スペースであるとか、そういうことも出てくるのかなと思いますので。

○会長 これ、28年度というのは、あれの時期と合うんですか、契約更改の。

○中央図書館次長 来年度までが一つの契約期限になっていますので、28年から次の期間に入るということですね。

○会長 次ですよ。なるほどね。少なくとも、ここに関してですけど。

○中央図書館次長 はい。

○委員 そのとおりかな。

○会長 何か、ほかにありますか。何せ外側はいじられないということなので、外側とあれでしょうね、大事なものは、何ていうんです。吹き抜けの部分。

○中央図書館次長 西側の部分ですか。

○会長 この、1階と2階の。恐らく、あの辺はデザイナーとしては譲らないところだろうと思うんですけどね。もし、そこまでいじっていいということであれば、多少の広がりが出てくるかなとは思いますが、悪くないですよ、この吹き抜け。ただ、実際には、あそこのレファレンスの先の階段が封鎖されているでしょ。せっかくのデザインが死んでいるというところもあるし。

それから、細かいところで言うと、今度の改修計画の中に、常設ができるような展示コーナーをちょっと、そんな大きいのはなくてもいいと思うんですけど、つくられたほうが

いいと思いますね。

ほかに何か。どんなことでも、思いついたら、この際ですからご発言ください。

どうぞ。

○委員 不登校児の支援学級は、改修の間、危険だからお子さんはいらっしゃれないですよね。

○中央図書館長 それは担当の所管の課のほうで、工事期間中は、区内の他の行政施設のどこかを活用するというので、探しているところです。

○委員 いえ、そのまま図書館ではなく。

○中央図書館長 はい。工事中はどこかで。

○委員 その後も。

○中央図書館長 その後は、まだちょっとわからないですけど。

○委員 わかりませんか。

○中央図書館長 はい。

○会長 しかし、大変ですね。私は二度大きい図書館を経験していますが、ほんと、大変ですよ。

○中央図書館長 そう。課題が、考えていないようなのも、また、次から次と出てきますね。

○会長 そうそう、いろいろ出てきますから。

ほかになければ、時間が参りましたので、報告事項、その他。

○中央図書館次長 特に、きょうは、ほかに報告案件とかはございません。

○会長 ありませんか。

○中央図書館次長 あとは次回の日程とか。

○会長 はい。次回の日程をどうぞ。

○中央図書館次長 よろしいですか。次回について今考えているのが11月の下旬ということで、具体的には29日の土曜日はいかがででしょうかと。その間には経営評価のほう、分科会ですか。そちらのほうを……

○会長 経営評価の流れみたいなのをちょっとおっしゃっていただけますか。評価委員が1、2、3、結構いらっしゃいますので、大ざっぱな流れを。

○企画運営係長 はい。経営評価委員会については、委員さん6名で、8月の下旬ぐらいから9月に第1回を開催できればと考えております。まず、第1回目としましては、その委員

会の進め方でありますとか資料のことでありますとか、そういった説明をさせていただいて、各委員さんから何か意見がありましたら、またそういうことを取り入れながら委員会を進めていければと考えております。

それで、第2回目から、各委員さんから、実際の図書館の評価の作業といいますか、評価をしていただきたいと思っております、その会を何回か重ねて、最終的な評価委員会としての報告のようなものが、最終的には協議会のほうにその報告ができればというように考えております。

○会長 その評価の報告、最終は今年度の最後の協議会ということですね。

○企画運営係長 そうですね。できたら、最終の協議会のほうに報告しまして、その協議会でまた意見、提言とかをいただいて、最終的な報告をまとめると。ちょっと、簡単ではありませんが。

○会長 そうすると、かなり大変な作業が。

○企画運営係長 はい。ご尽力いただきたいと思います。

○会長 ということなので、この場にいらっしゃる評価委員の皆さん、どうぞお覚悟をください。

○中央図書館次長 まだ1回目の開催日、確定はしていませんけど、8月下旬から9月上旬の中で今、検討しています。それで、また候補の日を絞りましたらご連絡さしあげたいと思いますので。

○会長 はい。それでは、時間になりましたので……

○委員 とりあえず、11月29日は一応セットですか。

○中央図書館次長 はい。これは協議会の全体会というところでお願いいたします。

○会長 よろしいですか。

○中央図書館次長 また、午後2時からこの場所だと考えてございます。

○会長 それでは、本日は、時間が参りましたので、これにて終了ということにいたします。どうもありがとうございました。

○中央図書館次長 この後、思いついたご意見がありましたら、メールでも構いません、単独の個別の部屋のこととかでも構いませんから、思いついたことを言っていただくと、こちらのほうも大変助かりますので、よろしく申し上げます。

《以上は、会長編集の協議会記録》